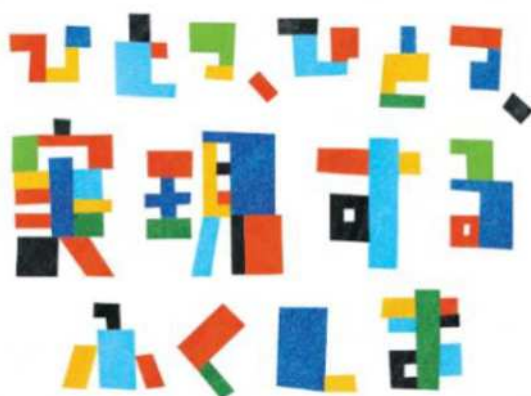


福島県生涯学習基本計画 の進行管理について

～学び合い、支え合い、地域が輝く。

次世代へつなぐ 生涯学習社会ふくしま～



施策1 人生100年時代を生きる学びの推進

＜施策の方向＞

- (1) 人生100年時代の学びの推進
- (2) 若い世代の「生きる力」を育む学びの推進
- (3) 支援が必要な方の学びの推進
- (4) 心身の健康づくりに向けた学びの推進

令和6年度の主な取組

(1) 人生100年時代の学びの推進

◆ 県民カレッジ推進事業（生涯学習課）【0千円】

県民の多様な学習ニーズや学習活動の広域化に対応していくため、県・市町村・高等教育機関、民間教育機関等が連携・協力し、県民が主体的、継続的に学習活動に取り組めるよう、生涯学習に関する情報や学習機会を提供する。

○令和5年度実績

県民カレッジ連携講座

(市町村・県庁(出先機関含む)主催講座(イベント)で1市町村に限定しない講座)

・講座数 1,329 講座 ・参加者数 822,578 人

市町村講座(市町村民限定講座(イベント))

・講座数 4,532 講座 ・参加者数 958,992 人

県民カレッジ情報ボックス利用(ヨークベニマル・公民館等への情報発信) 7団体(17件)

◆ 消費者行政体制強化事業（消費者教育事業）（消費生活課）【7,447千円】

消費者被害の防止・救済のため、また、自主的かつ合理的に社会の一員として行動する自立した消費者の育成のため、学校や地域で活動する多様な主体と連携しながら出前講座等の消費者教育事業に取り組む。

○令和6年12月末実績

・LINE公式アカウントによる情報発信：毎月2回以上配信

・高校生向け啓発パンフレット：18,000部作成

・高齢者向け啓発パンフレット：14,000部作成

・出前講座(教員向けも含む)：57回実施(12月末)※年60回予定

・消費生活情報紙「くらしの情報」作成・配布：年3回発行(12月末)※年4回予定

・消費者問題ネットワーク構築事業：勉強会を2回開催(12月末)※年3回予定

◆ デジタルデバйд解消事業（デジタル変革課）【7,508千円】

高齢者の情報活用能力の習得・向上を支援し、ICTを活用した地域活性化の促進を図るため、市町村や会津大学、関係機関と協力して地域の高齢者のデジタルデバйд解消に向けた情報リテラシー向上教室を行う。

○令和6年12月末実績

・スマホ教室を13町村県21回開催

・デジタルサポーターを4市町計19名認定

◆ **離職者等再就職訓練事業（産業人材育成課）【 478,426 千円】**

離職者等求職者の早期就職を支援するため、公共職業安定所から受講あつせんを受けた者に対し、事務分野や介護分野など多様な職業訓練を委託して実施する。国の委託事業

- 離職者等再就職訓練事業（R6.11 月末現在）
 - ・受講者 892 名 ・修了者 507 名 ・就職率 75.9%（* 7 月末現在）
- 令和 5 年度実績（R6.3 月末現在）
 - ・受講者 1,138 名 ・修了者 909 名 ・就職率 78.0%

◆ **ジョブ・カードの普及啓発（産業人材育成課）【 0 千円】**

委託訓練受講者等へのジョブ・カードの作成支援及び普及啓発を行う。

- ジョブカード作成支援件数（R6.11 月末現在）
 - ・委託訓練 709 件 ・学卒訓練 0 件
- 令和 5 年度実績（R6.3 月末現在）
 - ・委託訓練 620 件 ・学卒訓練 95 件

◆ **職場における女性活躍推進事業（雇用労政課）【 10,122 千円】**

働き方改革や女性活躍に関する出前講座・セミナーにより、企業の経営者、担当者の意識を高めるとともに、働く女性向けセミナーと個別相談により、女性のキャリアアップを支援する。

- 働く女性のキャリアアップ事業
 - ・働く女性のキャリアアップ支援セミナー
10/18 郡山市（21 名参加）、11/22 いわき市（30 名参加）、12/6 会津若松市（18 名参加）
※ オンライン参加者を含む
 - ・女性向け個別支援相談窓口
延べ相談者数 36 名（11 月末現在）
- 企業内担当者育成 WLB 推進塾（3 回連続セミナー）
10/11,11/8,12/13 郡山市（参加者延べ 26 名）

◆ **男女共生センター管理運営委託事業（啓発及び研修事業）（男女共生課）【 1,764 千円】**

男女共同参画についての県民意識の変革を図るため、様々なアプローチ方法で各種事業を実施するとともに（啓発事業）、男女があらゆる分野に参画し、ともに責任を担うために必要な資質・能力の向上を図り、個人・家庭・地域等における取組が進むよう各種講座を開催する（研修事業）。

- 未来館トークサロン 11/28 8 名、12/11 19 名
- 男女間における暴力の防止と被害者支援事業：11/16 29 名
- ダイバーシティ理解促進事業：6/15 42 名
- 未来館エンパワーメント塾：1/25、2/8、2/22 にそれぞれ実施予定
- 教師のためのジェンダー平等推進セミナー：8/7 28 名
- 研修講師派遣事業：10 回派遣
- 市町村男女共同参画担当者研修
 - ・担当者研修：6/7 30 名
 - ・担当者会議：1～2 月に実施予定
- 復興・防災と男女共同参画に関する人材育成事業：10/12 10 名、2/15 実施予定
- 福島未来を担う女性リーダー育成事業：2～3 月に 3 回実施予定

(2) 若い世代の「生きる力」を育む学びの推進

◆ チャレンジ！子どもがふみだす体験活動応援事業（ふくしまキッズパワーアップ事業、「ふくしまの未来」へつなぐ体験活動応援事業）（社会教育課）【152,740千円】

東日本大震災の経験を踏まえ、子どもたちが充実した自然体験活動・震災学習等を行う機会を通して心身ともに健康で、豊かな人間性の育成を図るとともに、社会体験活動を通して、主体的に復興に寄与する、新生ふくしまを担うたくましい子どもたちの育成を図る取組を支援する。

○ふくしまキッズパワーアップ事業

167 団体、9,349 名（12月16日現在）

○ふくしまの未来へつなぐ体験活動応援事業

・元気を届ける交流・体験事業 1 団体 ・今を知り思いを伝える事業 23 団体

◆ 地域学校協働本部事業（地域学校協働活動補助事業）（社会教育課）【77,604千円】

地域の総合窓口として「地域コーディネーター」を配置し、学校の窓口として「地域連携担当教職員」を任命することで、地域と学校がパートナーとなって連携・協働していく組織的・継続的な体制を構築するための取組を支援する。

○R6年度実施市町村数

・地域学校協働活動 27 市町村
・家庭教育支援活動 5 市町村

◆ インターンシップによるキャリア教育充実事業（高校教育課）【396千円】

インターンシップを実施することにより、早期に職業観、勤労観を醸成するとともにキャリア教育の推進を図る。そのため、受入企業との事前打合せや巡回指導を行う教員の旅費を支援する。

11月から12月にかけてインターンシップを実施している学校が多く、現在インターンシップの報告書の回収中。

○本県における職場体験・インターンシップ実施状況等

・令和5年度 64.6%（国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター調査）
・令和4年度 54.9%（ " " ）

◆ ふくしまの未来をひらく読書のカプロジェクト

（情報発信プロジェクト）（社会教育課）【1,063千円】

中学生・高校生の自主的な読書活動推進や情報発信力の向上を目指し、中学生・高校生によるビブリオバトル福島県大会を開催する。ビブリオバトルを通じて、福島の元気を発信し、復興を担う人材の育成を図っていく。

・日時 10月12日（土）
・場所 福島県立図書館
・発表者 中学生7名（地区予選会参加中学生38名）
 高校生7名（地区予選会参加高校生36名）
・観戦者 161名（地区予選会観戦者757名）

(3) 支援が必要な方の学びの推進

◆ ふくしまの誰一人取り残さない教育体制整備事業（特別支援教育課）【 41,484 千円】

「地域で共に学び、共に生きる教育」を推進するため、市町村において、教育、保健、福祉、労働等の関係機関と連携し、特別な支援を必要とする子どもたちの就学前から学校卒業後までの切れ目のない支援体制の整備と研修の充実を図る。

- 特別支援教育アドバイザー10名配置（県内特別支援学校10校）就学等に関わる相談 等
- 地域支援体制を戦略的に進める会議 事業担当者会議（年4回）
4月9日（火）、7月5日（金）、1月10日（金）、2月28日（金）開催
- 特別支援教育推進会議 委員11名 5月10日（金）、1月27日（月）開催

◆ 東京2025デフリンピック開催復興推進事業（スポーツ課）【 32,545 千円】

2025年に本県でサッカー競技が開催される「東京2025デフリンピック」に向けた県内の機運醸成に取り組むとともに、大会開催を契機にデフスポーツ（聴覚障がい者スポーツ）やろう者への理解促進・関心向上を図るなど、大会に関連した一連の取組を通じて、共生社会の実現に寄与する。

- 東京2025デフリンピック1年前カウントダウンフェスタ「デフスポふくしま」の開催
 - ・令和6年11月17日（日）、Jヴィレッジ全天候型練習場【参加者1,024名】
 - ・講演、トークイベント、デフ・パラスポーツ体験、手話体験等
- 大会開催300日前イベントの開催
 - ・令和7年2月1日（土）、円谷幸吉メモリアルアリーナ【規模 1,000名程度】
 - ・エキシビジョンマッチ、デフバスケットボール教室、手話体験ブース等
- 手話に親しむ出前講座（保健福祉部実施）、相双・いわきの小学校【実施校 13校】
 - ・子どもたちが手話に関心を持つ機会を提供するため、出前講座を実施
- 子ども観戦招待【対象：県内の小中高生】
 - ・R7年度に実施するサッカー競技観戦への参加校募集、バス手配等【参加者：2,233名】R7/1/31現在

◆ 障がい者スポーツ振興事業（スポーツ課）【 20,166 千円】

障がい者の社会参加を図るため、県障がい者スポーツ大会を開催するとともに、障がい者スポーツ指導員の養成を行う。また、障がい者が日常的にスポーツに親しむ文化の創出、豊かなスポーツライフの創造を図るため、障がい者スポーツ施策を総合的に推進する。

- 第62回福島県障がい者スポーツ大会の開催（5/19（日）、5/26（日）、11競技778名参加）
- 初級指導者養成講習会の開催（12/7（土）、12/8（日）、12/14（土）、16名受講）
- スポーツ教室の開催（運動導入教室：92回予定、種目別スポーツ教室：80回予定：10種目）

◆ 多文化共生推進事業（やさしい日本語普及促進事業）（国際課）【 8,063 千円】

外国人住民が安心して生活できる環境づくりに向けて、関係団体と連携し、セミナーや外国人住民と地域が協働して行う講座等を通じて、県民へのやさしい日本語の普及促進を図る。

- 市町村や企業、関係団体と連携した日本語の普及促進に取り組んだ（R6.12末現在）。
 - ・外国人顧客等に対する窓口対応力向上研修への講師派遣（やさしい日本語セミナー）：23回
 - ・やさしい日本語協働パートナーネットワーク会議の開催：1回 ・防災講座：1回
 - ・オンライン日本語サロン：3回 ・生活オリエンテーション講座：4回
 - ・日本語教室の自走化に向けての開設支援（ステップ日本語講座）：5団体
 - ・その他関係団体と連携した広報活動 6回

(4) 心身の健康づくりに向けた学びの推進

◆ チャレンジふくしま県民運動推進事業（文化振興課）【30,204千円】

「人も地域も笑顔で元気なふくしま」を実現するため、健康、運動、食、文化等の関係団体が連携し、県民一人一人の日常的な健康づくりの実践のみならず、地域全体の盛り上がりにつながるよう、多方面から健康への気付きやきっかけづくりの提供等を行う。

- アートとウォーキングを組み合わせた取組「ふくしまアートウォーキング」を開始（9月～）
 - ・9/4 ふくしまアートウォーキングオープニングイベント
 - ・9/5～1/31 ふくしまアートスポット Instagram キャンペーン
 - ・9/28、10/12、10/26 アートウォーキングモデルコース体験イベント
 - ・10/26～1/31 アートスポットスタンプラリー
- 県内大学・短期大学と連携し、ヘルシーメニューを開発（R7.1月以降、開発メニューを連携先の企業等の社食やレストランで提供予定）
- 県民運動ポータルサイトにて、県内各地の健康づくりイベントを「県民運動イベント」として周知
 - ・県民運動イベント登録数(R6.12月末時点) 725件

◆ ふくしま健民パスポート事業（健康づくり推進課）【19,277千円】

県民が健康づくりに参加しやすいよう、インセンティブを付与する仕組みを取り入れたふくしま健民アプリの活用や市町村との連携事業による「ふくしま健民パスポート事業」を実施する。

- 令和6年度より毎月1日、11日、21日に公共交通機関等を活用して8,000歩を促すふくしまウォーキングデーミッションを実施。
- 令和6年11月1日～11月30日までチーム対抗バーチャルウォーキング大会を開催。
- アプリダウンロード数（11月末現在）90,406件

◆ スポーツふくしま普及啓発・住民参加事業【13,006千円】

市町村と関係団体等に対し、地域スポーツの一体的な環境づくりをテーマに講演や分科会（意見交換会）等を実施する。また、子どもたちの夢や希望を育むためスポーツイベントを県内各地で開催するほか、スポーツボランティアの更なる育成による「ささえるスポーツ」文化の普及を図る。さらに、子どもから高齢者まで誰もがいつでも参加できる総合型地域スポーツクラブの充実に向けた支援を行うことで、新たな「福島県スポーツ推進基本計画」に基づく生涯スポーツ社会の実現を目指す。

- 地域スポーツ推進会議
 - ・第1回地域スポーツ推進会議（4月19日（金）、参加者86名）
 - ・第2回地域スポーツ推進会議（7月23日（火）、参加者40名）
- 輝け未来へ！スマイルスポーツ教室 in ふくしま
 - ・スカイスports教室（6月2日（日）、参加者74名）
 - ・スケートボード教室（9月29日（日）、参加者52名）
 - ・BMX教室（11月24日（日）、参加者36名）
- スポーツボランティア・レガシー事業
 - ・スポーツボランティア初任者研修 3回 参加者 262名
 - ・初心者実践研修 5月～2月 県内各地
- リーダー研修（12月7日（土）、参加者16名）
- 総合型地域スポーツクラブ支援アドバイザー派遣事業
 - ・クラブ訪問等 4月～3月

令和7年度の取組予定

(1) 人生100年時代の学びの推進

○継続事業

- ・県民カレッジ推進事業（生涯学習課）【0千円】
- ・離職者等再就職訓練事業（産業人材育成課）【460,481千円】
- ・ジョブ・カードの普及啓発（産業人材育成課）【0千円】
- ・意識改革推進事業（雇用労政課）【16,426千円】
- ・消費者行政体制強化事業（消費者教育事業）（消費生活課）【9,611千円】
- ・デジタルデバイド解消事業（デジタル変革課）【5,532千円】
- ・アカデミアシーズ創出事業（産業振興課）【41,592千円】
- ・男女共生センター管理運営委託事業（啓発及び研修事業）【1,764千円】
- ・カーボンニュートラル推進事業（ふくしまゼロカーボン宣言事業）（環境共生課）【7,904千円】

○一部新規事業

- ・国際交流推進事業（ふくしまグローバル人材育成事業）（国際課）【396千円】

(2) 若い世代の「生きる力」を育む学びの推進

○継続事業

- ・チャレンジ！子どもがふみだす体験活動応援事業（ふくしまキッズパワーアップ事業、「ふくしまの未来」へつなぐ体験活動応援事業（社会教育課）【130,668千円】
- ・地域学校協働本部事業（地域学校協働活動補助事業）（社会教育課）【77,604千円】
- ・インターンシップによる産業人材育成事業（高校教育課）【396千円】
- ・ふくしまの未来をひらく読書のカプロジェクト（情報発信プロジェクト）（社会教育課）【1,058千円】
- ・ふくしまで働く医療関連産業次世代人材育成事業（医療関連産業集積推進室）【39,807千円】
- ・ふくしま旬の食材等活用推進事業（農産物流通課）【63,250千円】

○新規事業

- ・子ども音楽体験支援事業（文化振興課）【2,759千円】

○一部新規事業

- ・男女共同参画推進条例・プラン推進事業（次世代スクールプロジェクト事業（男女共生課）【448千円】
- ・ふくしまデジタルアート推進事業（文化振興課）【9,813千円】

(3) 支援が必要な方の学びの推進

○継続事業

- ・ふくしまの誰一人取り残さない教育体制整備事業（特別支援教育課）【37,540千円】
- ・点字図書館の管理運営（障がい福祉課）【47,621千円】
- ・障がい者スポーツ振興事業（スポーツ課）【19,853千円】

○新規事業

- ・ともに、つながる。ふくしまスポーツ交流事業（スポーツ課）【10,352千円】

○一部新規事業

- ・多文化共生推進事業（やさしい日本語普及促進事業）（国際課）【10,292千円】
- ・東京2025デフリンピック関連復興推進事業（スポーツ課）【84,488千円】

(4) 心身の健康づくりに向けた学びの推進

○継続事業

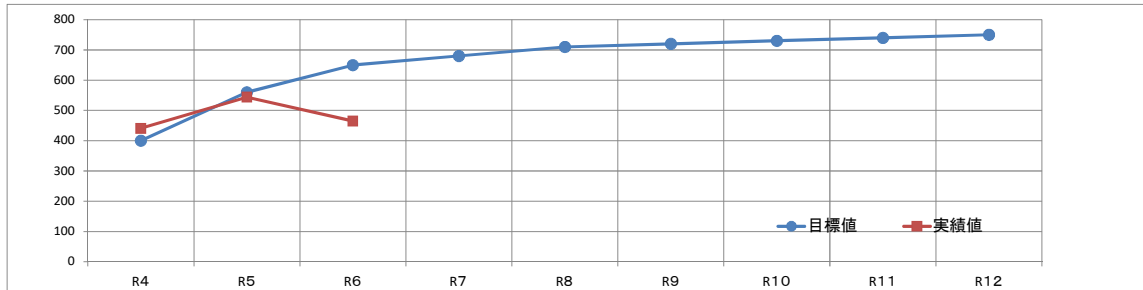
- ・チャレンジふくしま県民運動推進事業（文化振興課）【30,204千円】
- ・ふくしま健民パスポート事業（健康づくり推進課）【13,530千円】
- ・食の安全・安心推進事業（消費生活課）【89,825千円】
- ・スポーツふくしま普及啓発・住民参加事業（スポーツ課）【13,040千円】

指標の進捗状況

【指標の評価方法】 A:100%以上 B:99~80% C:79~70% D:69%以下

1 市町村生涯学習講座受講者数(人口千人当たり)

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	評価
目標値	400	560	650	680	710	720	730	740	750	A (見込)
実績値	441	544	465 12/31							
達成率	110%	97%	72%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	

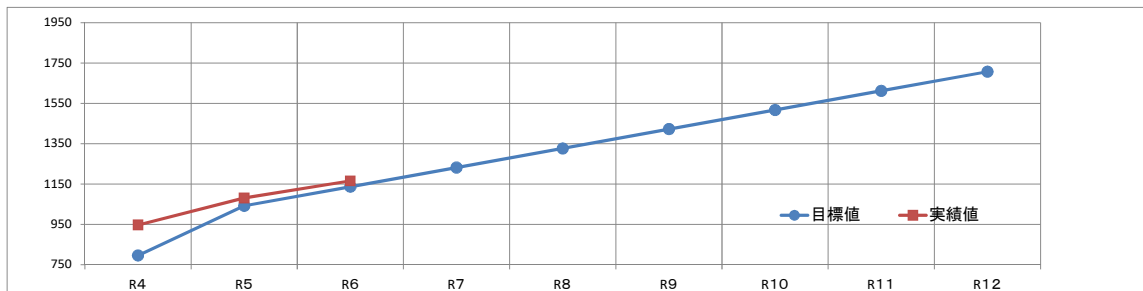


令和4年度と令和5年度の比較及び達成見込み・要因	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度は、コロナが5類感染症に位置づけられ、行動制限が緩和されるとともに、新しい生活様式の日常化により、これまで自粛や中止となっていた講座やイベントが再開されたため、令和4年度に比べ参加者数が増加した。 令和6年度は、12月31日時点で465人(人口1,000人あたり)だが、参加者が伸びた令和5年度の同時期の実績値が387人であったことから、令和6年度の最終実績値は、令和5年度の実績値を大きく上回り、年度目標値を越える見通しである。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> 福島県生涯学習情報提供サイト(ふくしまナビ)から、県内各地で行われる講座やイベントの情報がタイムリーに発信されるよう、市町村をはじめ登録団体等へ情報の登録を呼びかける。 ふくしまナビから講座情報等を登録・発信する方々や、サイトから情報を入手する県民の方々の利便性向上につながるシステムの拡張及び改装等を行う。 より県民のニーズに応じた講座が増えるよう、市町村の要請等に応じて講座を企画する際の資料提供や市町村訪問の機会などを設ける。

2 福島県次世代育成支援企業認証数

令和6年3月19日目標値上方修正

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	評価
目標値	796	1042	1137	1232	1327	1422	1517	1612	1707	A
実績値	947	1,081	1,166 10/31時点							
達成率	119%	104%	103%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	

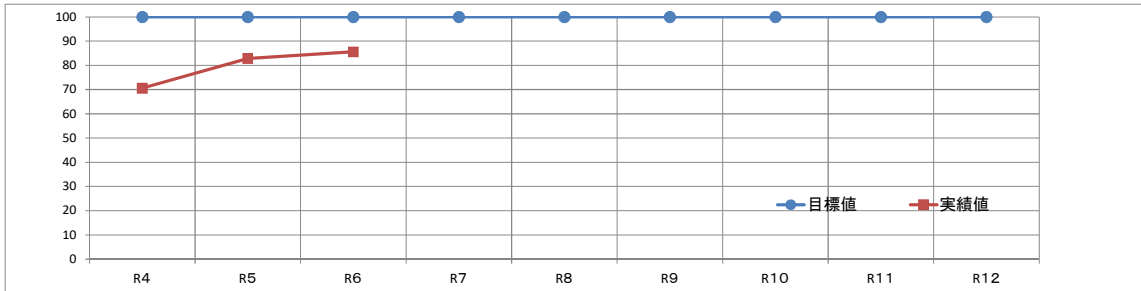


達成見込み・要因	<ul style="list-style-type: none"> 件数が伸びている要因として、入札時の加点メリットを背景とした建設事業者の申請、さらには育児・介護休業法の改正により、男性向けの新たな育児休業制度が制定されるなど、社会全体としてワーク・ライフ・バランスの重要性の認識が高まってきていることがある。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> 建設関係以外の業種の申請を進めるため、他業種の企業を訪問し、制度のPRを行うとともに、認証取得することで、活用できる「女性活躍・働き方改革支援奨励金」等の施策を併せてPRして認証の取得を促進する。

3 個別の教育支援計画の引継ぎ率

(%)

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	評価	
目標値	100	100	100	100	100	100	100	100	100		B
実績値	70.6	82.9	85.6								
達成率	71%	83%	86%	0%	0%	0%	0%	0%	0%		

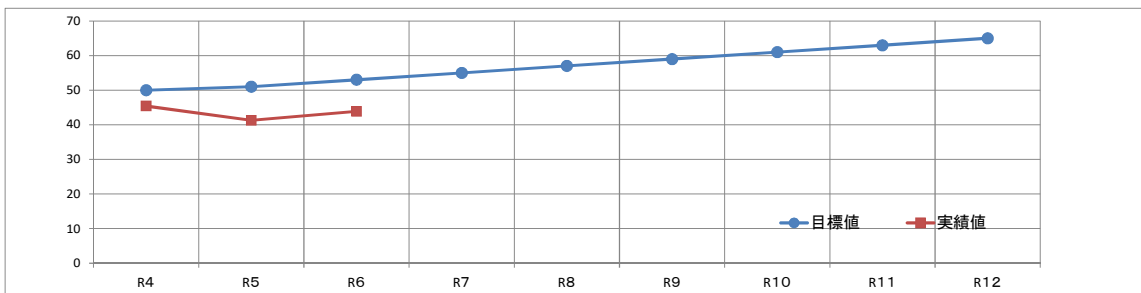


令和5年度と令和6年度の比較及び達成見込み・要因	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度まで、約3割が引き継がれていない要因として、個別の教育支援計画の作成に児童生徒本人及び保護者の同意や合意、参画が得られないケースがあった。特に小中学校の通常の学級に在籍する、支援の必要な児童生徒について、そのようなケースが見られた。そこで、令和5年度以降、各市町村教育委員会や各学校に対して、作成・活用の有効性等の具体例を示し、個別の教育支援計画の作成と活用の必要性を、様々な機会において周知を行ったことにより、令和6年度も、作成引き継ぎ率が向上した。 今後の課題としては、中学校から高校への引き継ぎ活用について、義務教育課及び高校教育課と特別支援教育課が連携しながら、目標値に向け、各校への周知等を継続し、取り組みを進めていくことが重要である。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> 個別の教育支援計画が教育的ニーズの把握と、子どもファーストの支援計画となるよう、作成と引き継ぎ活用のメリットを本人と保護者に丁寧に説明するよう、各種研修や支援をとおして、学校や市町村教育委員会への理解啓発を図っていく。 計画的に、地域の関係機関と情報交換や課題の共有、改善に向けた話し合いを実施し、連携した取組を行うようにする。 中高連携については、高校入学者選抜の合格発表後、中学校と高等学校間における個別の教育支援計画の情報共有と引き継ぎについて、必要に応じて実施されるよう全校へ周知を図っていく。

4 成人の週1回以上の運動・スポーツ実施率

*参考:()は、「(スポーツ庁)体力・運動能力調査」の実績値 (%)

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	評価	
目標値	50	51	53	55	57	59	61	63	65		B
実績値	45.4 (52.8)	41.3 (47.8)	43.9 (51.4)								
達成率	91%	81%	83%	0%	0%	0%	0%	0%	0%		



達成見込み・要因	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度は、各地で多くのスポーツイベントが開催され、県においても、県民のライフステージに応じたスポーツ機会の提供を行った。年度目標には達しなかったものの、昨年比で実施率が大きく上回った。 実施率が増えた要因としては、スポーツの必要性に対する意識の向上や、気象庁の「熱中症アラート」発表が12回と昨年度を下回ったことと、熱中症対策が進んだことなどが考えられる。 一方、年度目標に届かなかった一因として、働き世代、子育て世代における仕事や家事への負担感が挙げられる。 なお、指標については、これまで「県民世論調査」に変えて、全国及び他県と同一基準で、比較、分析が容易な「(スポーツ庁)体力・運動能力調査」の指標に変更する予定である。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、各関係団体と連携し、スポーツイベントや体験教室等を開催するなど、様々なライフステージに応じたスポーツの機会提供を行っていくとともに、「忙しく時間がない」などの理由で運動・スポーツに費やす余暇時間が確保できない世代に対して、他部局や様々な団体と連携し、イベントや会議、PR活動等をとおして、短時間でも実施できる運動などへの働きかけを検討する。 身近な地域で運動・スポーツ活動に親しむことができるよう、各地域の課題の把握と地域間の連携促進を図る会議等を開催する。

施策2 地域づくりにつながる学びの推進

<施策の方向>

- (1) 地域コミュニティの活性化
- (2) 地域への誇りと愛着を育む学びの推進

令和6年度の主な取組

(1) 地域コミュニティの活性化

◆ ふるさと・きずな維持・再生支援事業（NPO・企業等との連携・協力事業）

（文化振興課）【5,792千円】

復興・被災者支援活動や地域課題に取り組んでいるNPO法人と、それらの社会貢献活動に関心のある支援者が、課題解決のため互いのニーズ・シーズを共有するマッチングの場を提供することで、協働事業の推進を図る。

- 県内のNPO法人に対して協働事業に関するアンケート調査を実施
- マッチングを希望するNPOを募集し、ヒアリング等を実施
 - ・ヒアリング件数 16件（R6.12.31現在）
- NPOと企業等の協働推進シンポジウムを開催予定（R7.2月）
 - ・日時 2月27日（木）
 - ・会場 杉妻会館
 - ・内容 ①講演：特定非営利活動法人日本NPOセンター常務理事 田尻 佳史 氏
 - ②企業×NPOの協働事例紹介 4事例
 - ③交流会・名刺交換会

◆ ふくしまを創る若者のプラットフォーム構築事業（高校教育課）【42,810千円】

若年層の県内還流及び定住を促進するため、各県立高校での地域協働による地域課題探究活動の更なる推進に向け、校内体制及び地域との連携体制の構築を行う。

- 各校の地域課題探究活動を支援
 - ・県内7地域に、地域ネットワーク推進委員を配置
- 高校生の探究学習への支援
 - ・時間や場所の制限がなく、いつでも学びを深められるよう、地域に関わる仕事に携わる地域人材や若手人材に関するICT教材（動画やテキスト等のコンテンツ）を制作。
- ふくしま高校生社会貢献活動コンテストの開催
 - ・日時 9月14日（土）
 - ・会場 ラコパふくしま
 - ・エントリーした31グループ中、予選（書類審査）を通過した12グループが出場。
- 地域人材や若手人材を活用した学習を支援
 - ・全県立高等学校へ、各校の地域課題探究活動のための予算を配分。
- 持続可能な探究学習のカリキュラム構築のための研修会を実施。
 - ・対象：教頭及び探究学習担当教員

◆ **ふくしまの次代を担う新規就農者支援事業（多様な担い手確保支援事業）**

（農業担い手課）【 85,648 千円】

高齢化等による農業就業者の減少に対応するため、就農ポータルサイト等によるPR、県内外での就農者確保に向けた推進活動や農業法人等での実習生受入、雇用マッチングの他、経営者向け人材確保・育成支援や新規就農者の定着促進の取組を行う。

- 就農ポータルサイト等によるPR PV数：149,616回（R6.11.30時点）
- 農業法人等での実習生受入 22名（R6.12.2研修開始生まで）
- ※ 研修終了済13名が直接雇用

◆ **地域でつながる家庭教育応援事業（社会教育課）【 2,513 千円】**

本県の家庭教育推進上の大きな課題である「親の学び」を支援するために、PTAと連携し、家庭教育について親自身が学ぶ機会が充実するよう企業と連携した地域の家庭教育の推進や親子の学びを応援する講座を行う。また、各地域で主体的に家庭教育の支援が行えるよう学習プログラムの活用を進めるとともに、地域で子育てをする親を支援する家庭教育支援者の養成・育成をする研修会を行う。さらに、行政機関や福祉機関と連携しながら、子育てや家庭教育を応援する「家庭教育支援チーム」の設置を促進する。

- 親子の学び応援講座
 - ・県北教育事務所 11/14（235名参加）
 - ・県中教育事務所 12/11（175名参加）
 - ・県南教育事務所 9/11（108名参加）
 - ・会津教育事務所 7/4（69名参加）、7/17（75名参加）
 - ・南会津教育事務所 7/12（120名参加）、11/22（67名参加）
 - ・相双教育事務所 11/30（43名参加）
 - ・いわき教育事務所 6/24（178名参加）、11/22（332名参加）、12/3（151名参加）
- 福島県家庭教育支援チーム 登録数29チーム

（2）地域への誇りと愛着を育む学びの推進

◆ **「地域のたから」民俗芸能総合支援事業（文化振興課）【 20,546 千円】**

震災により被災した民俗芸能等の継承・発展のため、担い手の意欲を高める公演の機会を提供するとともに、民俗芸能団体に専門家を派遣するなどの各団体の実情に応じた支援を行う。

【民俗芸能公演事業】

- | | |
|-----------------------------------|---------|
| ①R6.8.11 楽しいオーケストラ in 福島 | 1 団体出演 |
| ②R6.9.14 ふたばワールド in ひろの | 2 団体出演 |
| ③R6.10.12～13 ふるさとの祭り 2024in こおりやま | 19 団体出演 |
| ④R6.11.17 デフスポふくしま | 1 団体出演 |

【民俗芸能復興サポート事業】

- ①民俗芸能個別訪問 21団体を訪問
- ②小学校との連携活動 6校にて実施

（以上12月末現在）

◆ **地域学校協働本部事業（復興に向けた学びを通じた協働のまちづくり事業）**

（社会教育課）【 98,336 千円】

震災後の子どもたちを取り巻く環境の変化に対応するため、地域と学校等が相互に連携・協働を進め「協働のまちづくり」を推進するとともに、復興に向けた学習や活動を通して、地域住民をつなぎ、被災者の孤立化と震災の風化を防ぐ事業を展開する。

○R6 年度 12 月末時点

○地域学校協働活動 実施市町村 13 市町村 1 NPO 法人

○家庭教育支援活動 実施市町村 1 市町村

◆ **ニュースポーツによる高齢者の健康づくり支援事業（健康づくり推進課）【 1,715 千円】**

誰もが気軽に取り組み、楽しむことができるニュースポーツにより、高齢者に運動習慣を定着させるとともに、社会参加の機会を増やし、高齢者の健康づくり、生きがいづくり、地域コミュニティづくりを促進し、介護予防につなげる。

○ニュースポーツ大会の開催（囲碁ボール、スカットボール、ボッチャ）

○7月から10月に県内6地区（県北・県中・県南・会津・南会津・浜通り）で地区大会を開催し、各地区の代表チームで10月にチャンピオン大会を開催した。
（参加者数 1,142 名）

○随時、ニュースポーツ用具を貸し出し普及啓発活動を実施。

令和7年度の取組予定

（1）地域コミュニティの活性化

○継続事業

- ・県民カレッジ推進事業（生涯学習課）【 0 千円】〔再掲〕
- ・ふるさと・きずな維持・再生支援事業（NPO・企業等との連携・協力事業）（文化振興課）【 5,641 千円】
- ・ふくしまの元気を創る地域産業6次化推進事業（ふくしま6次化人材育成事業）
（農林企画課）【 8,000 千円】
- ・地域でつながる家庭教育応援事業（社会教育課）【 2,465 千円】
- ・ふくしまを創る若者のプラットフォーム構築事業（高校教育課）【42,810 千円】
- ・ふくしまの次代を担う新規就農者支援事業（多様な担い手確保支援事業）（農業担い手課）【 84,117 千円】

（2）地域への誇りと愛着を育む学びの推進

○継続事業

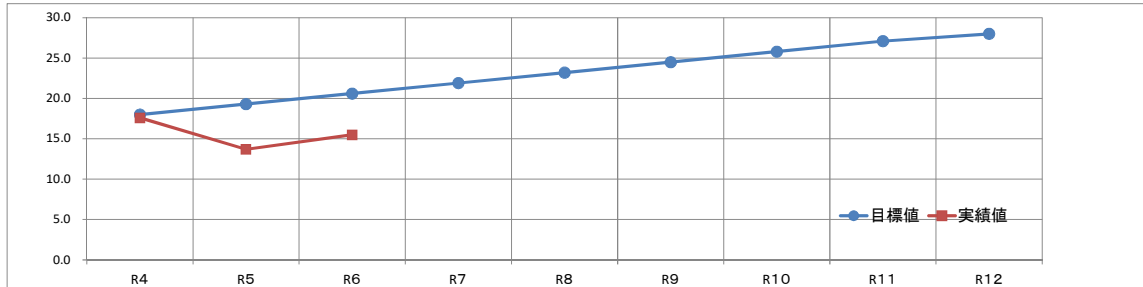
- ・地域学校協働本部事業（復興に向けた学びを通じた協働のまちづくり事業）（社会教育課）【 92,615 千円】
- ・「地域のたから」民俗芸能総合支援事業（文化振興課）【 20,340 千円】
- ・「ふくしまの農育」推進事業（農村振興課）【 3,558 千円】
- ・ふくしまの次代を担う新規就農者支援事業（青年農業者等活動支援事業）（農業担い手課）【 2,599 千円】
- ・学校給食における地場産物の活用応援事業（健康教育課）【 0 千円】

指標の進捗状況

【指標の評価方法】 A:100%以上 B:99~80% C:79~70% D:69%以下

5 住民やNPOなどによる地域活動に積極的に参加していると回答した県民の割合(意識調査) (%)

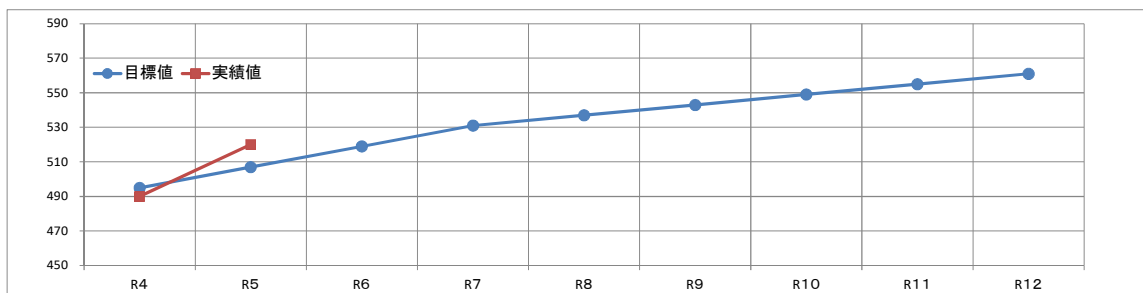
年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	評価
目標値	18.0	19.3	20.6	21.9	23.2	24.5	25.8	27.1	28.0	
実績値	17.6	13.7	15.5							
達成率	98%	71%	75%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	



達成見込み ・要因	<ul style="list-style-type: none"> ・R5年度調査よりも実績値が若干伸びたが、人口減少、少子高齢化等により、地域活動の担い手不足が顕著であり、依然として地域活動への参加率は目標値よりも低い水準で推移している。 ・地域活動への参加が進まない要因として、子育てや家事、仕事等で時間の確保が難しいといった理由が挙げられる。一方、地域活動への参加のきっかけとしては、友人や地域の方の誘い、自分がやりたい活動だった、時間的な余裕ができたといった動機が働いている。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・県及び各市町村の生涯学習情報サイトや広報紙などをとおして、自分がやりたい活動が見つかるよう、ボランティアや地域活動等の生涯学習情報を積極的に発信していく。 ・社会教育担当者を対象とした研修会等の機会をとおして、地域の人材養成や世代間交流等を目的とした講座の企画や運営の支援をしていく。 ・今後、地域住民の生涯学習推進の拠点施設等において、地域住民が地域活動に対する当事者意識を持つことができるよう、地域活動についての情報の提供や出会いの場の提供といった環境整備を進めていく。

6 NPOやボランティアと県内自治体等との協働事業件数 (件)

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	評価
目標値	495	507	519	531	537	543	549	555	561	
実績値	490	520								
達成率	99%	103%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	



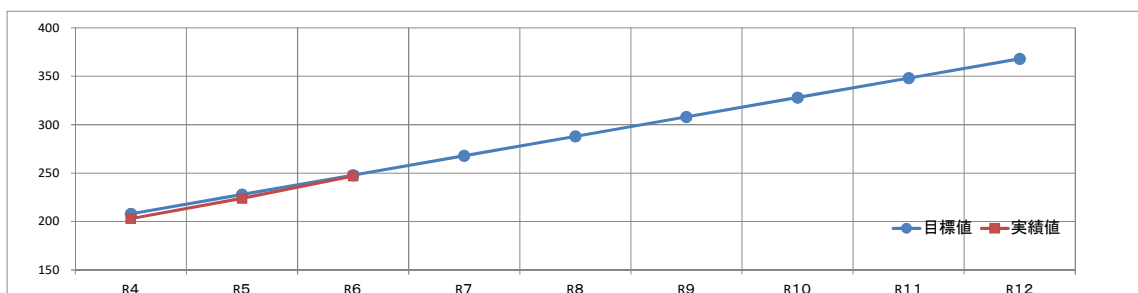
令和4年度と 令和5年度の 比較	令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、当初計画していた協働事業が中止になるケースが多かったが、令和5年度は5類移行に伴い、活動が活発化したことで前年度から大きく増加した。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・NPOと企業等の協働を促進するため、引き続き、NPOと企業等との協働事業の成功事例の広報啓発や、マッチングの支援(NPOや企業へのヒアリング、情報提供、マッチングの機会提供、事業実現に向けた助言等)に取り組んでいく。

7 ふるさとの祭り参加民俗芸能団体数(累計)

(件)

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	評価
目標値	208	228	248	268	288	308	328	348	368	
実績値	203	224	247							
達成率	98%	98%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	

B



達成見込み ・要因	<p>・「ふるさとの祭り」には、本体公演と出張公演があり、今年度は本体公演に19団体、出張公演に4団体、合計23団体が参加し、多くの観客の前で民俗芸能を披露いただいた。これにより、今年度までの累計参加団体数は247団体となり、概ね目標を達成した。</p>
今後の取組	<p>・引き続き、県内各地で開催される各種イベントにおいて、民俗芸能をより多くの県民に知ってもらえる機会、芸能を披露する機会を確保する観点から、「ふくしまの祭り」として参加できるよう調整を進めていく。</p> <p>・担い手の確保のため、地域の移住者、定住者や県内外の大学生などが、民俗芸能団体との連携や活動の協力をしていく関係づくりに取り組んでいく。</p>

施策3 東日本大震災及び原子力災害の記憶と教訓の伝承

<施策の方向>

- (1) 東日本大震災等の経験や教訓の伝承と防災教育の推進
- (2) 伝承館による記憶と教訓の伝承

令和6年度の主な取組

(1) 東日本大震災等の経験や教訓の伝承と防災教育の推進

◆ 東日本大震災福島県復興ライブラリー整備事業（社会教育課）【2,904千円】

被災地域の図書館及び公民館図書室が行う、学校図書館支援活動や地域住民の学習環境を整えるため、地域を知り、支えるための資料を収集し、移動図書館（あづま号）による巡回貸出を行う。

- 巡回先町村 8町村（檜葉町、富岡町、川内村、浪江町、葛尾村、飯館村、広野町、大熊町）
- 貸出冊数 2,709冊（10月末現在）

◆ 震災・原発の経験・教訓、復興状況伝承事業（ジャーナリストスクール開催事業）（生涯学習課）【7,030千円】

福島県の子どもたちが、県内で復興・再生に邁進している団体等に対して取材を行い、震災の経験や教訓、復興に向けての取組を学び、発信することにより、ふるさとへの愛着心を育むとともに、ふくしまの復興を広く国内外に発信する。

- 日時 8月8日（木）開校式・取材
10日（土）～11日（日）新聞作成
8月17日（土）発表会・閉校式
- 場所 東日本大震災・原子力災害伝承館、相双地区 他
郡山市青少年会館、郡山市市民交流プラザ
- 受講生 県内の小学5年生～高校生 37名
- 発表会参観者 90名
- 特別講師 池上彰氏
- 発行部数 60,000部（配布先：県内外避難者、県内各小・中・高・義務教育学校、他）
- 英語版新聞 本課HPに掲載予定

◆ 震災と復興を未来へつむぐ高校生語り部事業（高校教育課）【18,162千円】

震災と復興に関する地域課題探究活動を通して、福島における震災、復興、そして未来について、自分の考えを持ち、自分の言葉で語ることでできる「高校生語り部」を育成する。この学びの過程で、生徒の思考力、判断力、表現力等を育成するとともに、県内外及び海外の高校生等との交流を通して、震災に関わる風化防止、風評払拭につなげる。

- ・実践校を18校指定。各校とも計画に基づき展開中。
- ・伝承館での教員研修を、小中学校は8月9日及び11月25日、高校は11月20日に実施。

◆ **次世代へつなぐ震災伝承事業（生涯学習課）【19,993千円】**

語り部団体等のネットワーク化や、人材育成、県外等への語り部派遣を行うことで、語り部等の持続的な活動の仕組みづくりに取り組み、次世代への震災の記憶と教訓の伝承につなげていく。

○ネットワーク化・レベルアップ

- (1) 東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議（2回開催）
 - ・6/3（月）双葉町産業交流センター、R7.2/8日（土）富岡町文化交流センター
- (2) 3.11被災地視察研修（ふくしま語り部ネットワーク会議会員対象）
 - ・10/10（木）～10/11（金）
 - ・訪問先：石巻市震災遺構門脇小学校、石巻南浜津波復興祈念公園、石巻市震災遺構大川小学校、南三陸町内被災地
- (3) ふくしま震災伝承者交流会
 - ・11/19（火）富岡町文化交流センター（参加者80人）

○人材育成

- (1) 伝承者育成検討プロジェクトチーム会議（2回開催）
 - ・5/17（金）富岡町文化交流センター、R7.1/16（木）双葉町産業交流センター
- (2) 伝承者育成講座（4回開催）
 - ・7/20（土）富岡町文化交流センター（受講生17人）
 - ・9/28（土）～9/29日（日）（受講生14人）
 - 1日目：フィールドワーク（大熊町・いわき市）、2日目：双葉町産業交流センター
 - ・11/30（土）双葉町産業交流センター（受講生9人）
 - ・R7.2/8（土）富岡町文化交流センター（受講生14人）
- (3) 伝承者英語講座（4回開催）
 - ・7/20（土）富岡町文化交流センター（受講生3人）
 - ・9/25（水）オンライン（受講生3人）
 - ・11/20（水）オンライン（受講生3人）
 - ・R7.2/8（土）富岡町文化交流センター（受講生3人）

○県外への語り部派遣

- ・42件派遣（東北7、関東16、中部7、関西3、中国1、四国2、九州・沖縄6）

◆ **WWLコンソーシアム構築支援事業（高校教育課）【11,521千円】**

福島における原子力災害からの復興を果たし、持続可能な社会を創造していくグローバル・リーダーの資質・能力の育成に取り組む福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校を事業拠点校に指定し、探究と海外研修を軸とし、また、大学と連携したグローバル人材育成のカリキュラムの開発・実践、その体制整備を支援する。県内外におけるグローバル人材育成を担う連携校や海外の連携校や国際機関等とも目的と情報を共有し、ネットワークを形成していく。

- ・R5年度、ふたば未来学園中学校・高等学校を事業拠点校に指定し、県内事業連携校5校と県外事業連携校2校や事業協働機関と福島アドバンスト・ラーニング・ネットワークを形成
- ・R5年度、事業拠点校における探究を軸とし、海外研修を体系的に位置づけたカリキュラム開発し、R6年度は、探究活動の課題等を踏まえ、通年で見直しを行っている。
- ・事業拠点校と事業連携校の取組の共有として、年間3回、連絡協議会を開催
- ・NPO法人カタリバと連携し、カリキュラム開発の教員研修会を2月10日開催（自治会館）
※ 連絡協議会及び教員研修会については、拠点校及び連携校の計8校が参加予定
- ・東北大学との連携（「学問論演習」の受講、成果発表会への参加、探究活動への専門的助言等）
成果発表会に参加予定（2月20日（木）東北大学）
- ・高校生国際会議（令和7年8月7日（木）8日（金）に開催予定）に向けた準備として、令和7年1～3月にかけてオンラインでふくしまAL（アドバンスト・ラーニング）探究ゼミを開催（R6.12.7（土）キックオフミーティング開催）

◆ そなえるふくしま防災事業（危機管理課）【 97,219 千円】

東日本大震災の教訓と経験を踏まえ作成した「そなえるふくしまノート」等を活用し、広く県民に対し、災害や災害の対応について、防災出前講座などの「学び」「体験」し、「考える」機会を通じ、防災意識の深化と定着を図り、県民の防災意識の高揚（「自助」）を促すとともに地域で助け合う（「共助」）精神の醸成を図る。

○防災啓発推進事業

- ・防災出前講座 49 団体（86 回）、2,596 名に実施（令和 6 年 12 月 27 日時点）
- ・防災士を活用した防災講座 56 回、835 名に実施（令和 6 年 12 月 27 日時点）
- ・市町村イベント・防災訓練等への出展 17 回（令和 6 年 12 月 27 日時点）
- ・危機管理センター見学 63 団体、1,220 名に実施（令和 6 年 12 月 27 日時点）
- ・防災ガイドブック「マイ避難ノート」の改訂
線状降水帯や内水氾濫等の新たな要素、防災アプリを活用した避難行動等を加えた改訂

○防災DX推進事業

- ・県民の適切な避難行動を支援する防災アプリの機能拡充や普及のための広報を実施。
ダウンロード数：86,351 ダウンロード（令和 6 年 12 月 15 日時点）

（2）伝承館による記憶と教訓の伝承

◆ 東日本大震災・原子力災害伝承館管理運営事業（生涯学習課）【 446,759 千円】

東日本大震災・原子力災害伝承館の効率的な運営を図る。

- ・複合災害に関する資料の収集、保存、展示及び利用に関すること
- ・複合災害に関する専門的な調査研究に関すること
- ・複合災害に関する講演会、講習会、研究会等の開催に関すること
- ・複合災害の経験及び教訓を学習する機会の提供に関すること

○資料収集・展示

- ・1,248 点の資料を収集（令和 6 年 12 月末現在）
- ・企画展示は 2 回実施、他県での巡回展示は 4 回実施

○調査研究

- ・令和 6 年 1 2 月に活動報告会開催（館長、上級研究員 3 名、常任研究員 4 名）
- ・令和 7 年 3 月に東日本大震災及び原子力災害の研究者を集めて学術研究集会を開催予定

○学習機会の提供

- ・280 団体 12,806 名が一般研修プログラムを受講し、4 団体 97 名が館長及び上級研究員による専門講座を受講（令和 6 年 12 月末時点）

◆ 東日本大震災・原子力災害伝承館学習活動支援事業（生涯学習課）【 27,144 千円】

県内外の小中高の児童・生徒が東日本大震災・原子力災害伝承館を活用して行う学習活動に対し支援する。

○令和 6 年 12 月末実績

- ・バス補助 延べ 88 校、バス 189 台、人数 6,474 人（児童生徒及び引率者）
- ・入館料補助 16,600 人程度
- ・申請サポート（窓口）業務委託
- ・事前学習 P G 作成業務委託

令和7年度の取組予定

(1) 東日本大震災等の経験や教訓の伝承と防災教育の推進

○継続事業

- ・東日本大震災福島県復興ライブラリー整備事業（社会教育課）【 2,914 千円】
- ・震災・原発の経験・教訓、復興状況伝承事業
（ジャーナリストスクール開催事業）（生涯学習課）【 7,715 千円】
- ・震災と復興を未来へつむぐ高校生語り部事業（高校教育課）【 17,187 千円】
- ・水害・土砂災害に関する防災教育を支援する出前講座（河川計画課）【 0 円】
- ・福島イノベーション人材育成事業（高校教育課）【 43,432 千円】
- ・福島イノベーション人材育成支援事業（高校教育課）【 30,714 千円】
- ・WWLコンソーシアム構築支援事業（高校教育課）【 11,528 千円】

○一部新規事業

- ・そなえるふくしま防災事業（危機管理課）【 65,973 千円】
- ・次世代へつなぐ震災伝承事業（生涯学習課）【 24,992 千円】

(2) 伝承館による記憶と教訓の伝承

○継続事業

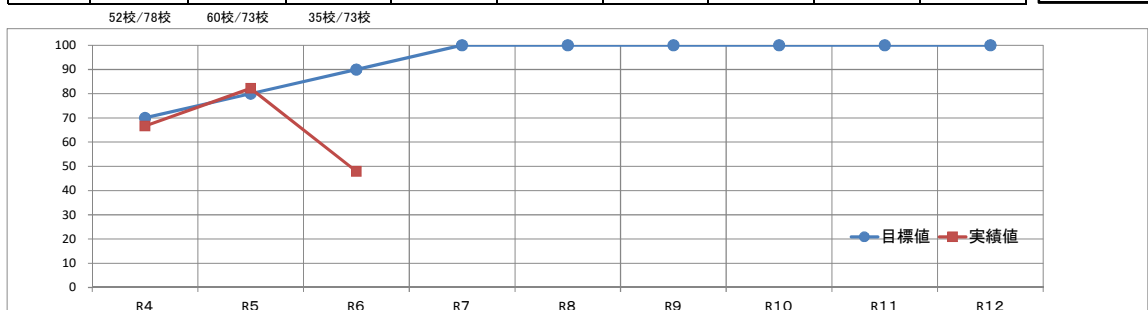
- ・東日本大震災・原子力災害伝承館管理運営事業（生涯学習課）【 426,300 千円】
- ・東日本大震災・原子力災害伝承館学習活動支援事業（生涯学習課）【 32,176 千円】

指標の進捗状況

【指標の評価方法】 A:100%以上 B:99~80% C:79~70% D:69%以下

8 語り部や風評払拭、風化防止に関連する探究活動を実施した県内県立高校の割合 (%)

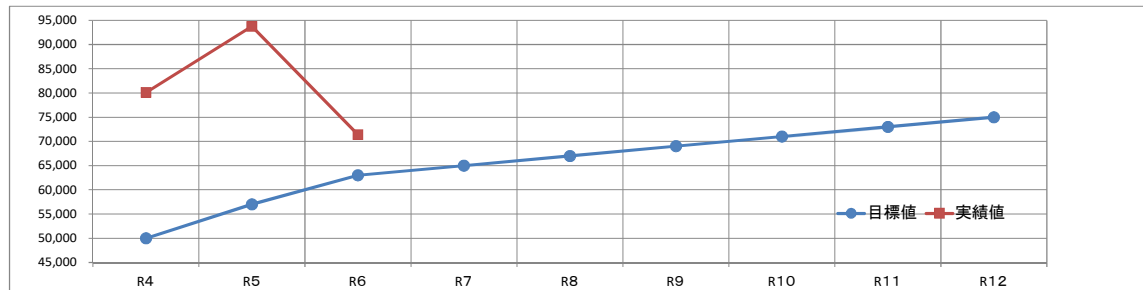
年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	評価 B (見込)
目標値	70	80	90	100	100	100	100	100	100	
実績値	66.7	82.2	47.9 12/31							
達成率	95%	103%	53%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	



達成見込み ・要因	<ul style="list-style-type: none"> 各校における、地域課題探究学習の定着・拡充に伴い、多様なテーマによる地域課題探究活動が実践されており、震災に係る学習もその一環として行われるようになっている。 高校生語り部事業が周知され、事業の活用に積極的な学校も多いが、各学校における事業の継承や実践校数の伸び悩みが課題である。 R6については、12月31日現在で、伝承館研修校及び語り部事業実践校の総数(実数)を記載している。全校調査結果(2月末頃集計予定)はまだ反映されていないが、昨年同時点と同様の実績であることから、最終的に昨年並の実績を見込んでいる。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> 従来から語り部事業に応募している学校が、今後も活動を継続できるよう関連する施策をとおして支援していく。 実践校への応募を促すために、学校間での震災・復興に関わる探究活動の情報交換の機会を充実させるとともに、活動内容の幅広い情報発信を推進していく。

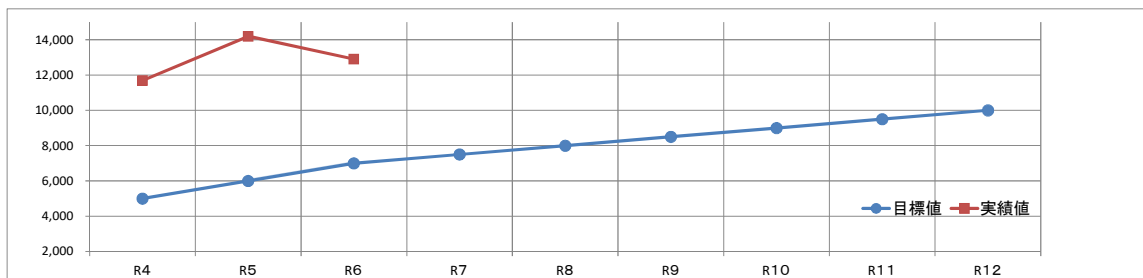
9 東日本大震災・原子力災害伝承館
(1)来館者数

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	評価
目標値	50,000	57,000	63,000	65,000	67,000	69,000	71,000	73,000	75,000	
実績値	80,119	93,759	71,398 12/31							
達成率	160%	164%	113%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	



(2)研修参加者数

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	評価
目標値	5,000	6,000	7,000	7,500	8,000	8,500	9,000	9,500	10,000	
実績値	11,684	14,197	12,903 12/31							
達成率	234%	237%	184%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	



達成見込み ・要因	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度以降、入館者数・研修参加者数のいずれも、令和12年度の目標値を既に上回って推移している。 ・令和6年度の入館者数であるが、令和5年12月31日時点で77,712人であったことを踏まえると、令和5年度比ではやや減少する見込みである。 ・令和6年度の研修参加者数は、令和6年12月31日時点で、昨年度同時点での12,286人とほぼ同程度の参加者数であることから、令和5年度並の参加者を見込んでいる。 ・新型コロナによる行動制限期間中は、伝承館のように静かに見学できる博物館等が教育旅行先等に採用されてきたが、令和5年度に第5類に移行し行動制限が解除されたことにより、訪問先として観光地等が選好され、入館者数が伸び悩んでいる。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・伝承館としての学びの魅力を維持・向上させていくため、計画的で分かりやすい展示内容の更新、魅力的な企画展の開催、研究事業の成果を踏まえた研修プログラムを充実させていく。 ・地元自治体や商工団体、農業団体、福島イノベーション・コースト構想の各拠点などの関係団体等と連携しながら、情報発信やプロモーション活動に取り組むことで、震災の教訓や復興する地域の姿、新たな魅力を発信していく。 ・先月に発表した、主に中学生を中心とした事前学習教材により、次の世代を担う子供たちに、効果的で理解しやすい伝承館の見学に結びつける取り組みを行っていく。

施策4 社会の変化等に対応した学びやすい環境づくりの推進

<施策の方向>

- (1) ICTの活用と学習情報の提供
- (2) 学習成果の発表と活用の場の提供
- (3) 関係機関等の連携・強化

令和6年度の主な取組

(1) ICTの活用と学習情報の提供

◆ デジタルデバイド解消事業（デジタル変革課）【7,508千円】〔再掲〕

高齢者の情報活用能力の習得・向上を支援し、ICTを活用した地域活性化の促進を図るため、市町村や会津大学、関係機関と協力して地域の高齢者のデジタルデバイド解消に向けた情報リテラシー向上教室を行う。

○令和6年12月末実績

- ・スマホ教室を13町村県21回開催
- ・デジタルサポーターを4市町計19名認定

◆ 建設DX推進事業（技術管理課）【49,800千円】

県内の建設業就業者は、55歳以上の割合が全国平均・全産業平均より高く、次世代への技術継承が大きな課題となっていること、また、令和6年4月より建設業における時間外労働の上限規制が適用されることから、建設産業における働き方改革、生産性向上を進めるため、技術者・施工業者の人材育成、ICT活用のための環境整備及び建設生産・管理システムのDX化に取り組む。

R6年度

- ・デジタル技術活用人材育成講習会を13回開催
- ・業界団体主催デジタル技術活用人材育成研修等への補助を3団体へ実施
- ・専門家によるICT活用技術支援を15企業へ実施
- ・建設DX加速化補助金事業を37企業へ実施
- ・電子納品保管管理システムの改修事業を実施

◆ ニュースレター発行（生涯学習課）【0千円】

生涯学習に関する情報をまとめた「ニュースレター」を年2回作成し、本課ホームページに掲載するとともに各市町教育委員会や他関係機関等に情報を発信する。

R6年度

- 第17号 令和6年11月発行
 - ・石川町文教福祉複合施設「モトガッコ」（石川町）
 - ・たむら市民大学「たまり」（田村市）
- 第18号 令和7年2月発行予定
- 配信先 442件
- ふくしまマナビ事例紹介ページ及び県生涯学習課HPより配信予定

◆ 生涯学習推進市町村支援事業（生涯学習課）【1,102千円】

福島県生涯学習情報システム（ふくしまナビ i）の保守及び機能充実を図り、講座を主催する市町村等が学習者のニーズに応じた魅力ある講座を県民に提供することにより、県民の学習参加と成果活用の促進し、自己実現と地域発展を支える本県生涯学習社会の実現を図る。

- 福島県生涯学習情報システム（ふくしまナビ i）に、新たに、①講座年度管理機能、②講座別受講者アンケート集計機能、③ユーザー管理機能を搭載し、県内の生涯学習関連情報の提供を行った。
- 運用状況（※R6.12.31現在）
 - ・アカウント付与数
市町村 305、県 96、民間教育施設・高等教育機関・民間企業 55
 - ・登録団体数
市町村 59、県 16、民間教育施設・高等教育機関・民間企業 44
 - ・講座・イベント登録数（非公開6083 公開1073）
 - ・動画登録数 270（庁内・民間教育施設等）
 - ・施設登録数 469（非公開 8 公開461）
 - ・講師情報 488（非公開 17 公開 471）

（2）学習成果の発表と活用の場の提供

◆ 県展開催事業（文化振興課）【15,770千円】

県内在住者及び県出身者から美術作品を公募し、一般に展覧することにより本県美術の振興を図る。

- 第78回福島県総合美術展覧会
 - ・会期 令和6年6月14日（金）～23日（日）
 - ・会場 とうほう・みんなの文化センター（県文化センター）
 - ・部門 5部門（日本画、洋画、彫刻、工芸美術、書）
 - ・出品数 742点（うち公募598点） ※陳列作品数は615点
 - ・特別企画 出品者研修会、ギャラリー・コンサート

◆ 福島県芸術祭（文化振興課）【1,000千円】（負担金）

県民による文化の公演発表等の促進、県民への芸術鑑賞機会の提供及び芸術文化団体等の活動促進を図るため、福島県芸術祭を開催する。

- <第63回福島県芸術祭>
- 開幕式典・開幕行事（重点地区：相双地区）
 - ・日程 令和6年9月1日（日）
 - ・会場 富岡町文化交流センター学びのもり
 - ・テーマ 生き継ぐ伝統 未来を照らす文化の芽吹き
- 芸術祭行事数 113（主催行事29、参加行事84）

◆ ジョブ・カードの普及啓発（産業人材育成課）【0千円】〔再掲〕

委託訓練受講者等へのジョブ・カードの作成支援及び普及啓発を行う。

- ジョブカード作成支援件数（R6.11月末現在）
 - ・委託訓練 709件
 - ・学卒訓練 0件
- 令和5年度実績（R6.3月末現在）
 - ・委託訓練 620件
 - ・学卒訓練 95件

◆ **声楽アンサンブルコンテスト全国大会（文化振興課）【19,198千円】**

「合唱王国ふくしま」として知られる本県の合唱活動の更なる発展を図るため、継続的に全国規模のコンクールを開催することにより、「合唱王国ふくしま」を全国に発信し、「合唱＝ふくしま」というイメージを定着させる。

○第18回大会の開催

- ・開催日程 令和7年3月20日（木）～23日（日）
- ・開催場所 ふくしん夢の音楽堂（福島市音楽堂）
- ・部門 4部門（中学校、高等学校、小学校・ジュニア、一般）
- ・出場団体 約135団体

◆ **文学賞実施事業（文化振興課）【4,051千円】**

県民から文学作品を公募し、成果発表の機会を提供するとともに優秀作品を顕彰することにより、本県文学の振興と地域文化の進展を図る。

○第77回県文学賞

- ・作品募集
 - ①部門 5部門（小説・ドラマ、エッセー・ノンフィクション、詩、短歌、俳句）
 - ②応募状況 250点（うち青少年56点）
- ・表彰
 - ①賞の種類 部門毎に文学賞、準賞、奨励賞、青少年奨励賞を決定
 - ②表彰式 令和6年11月3日（文化の日）、杉妻会館
- ・作品集の発行及び販売
受賞作品を収録した県文学集を令和7年3月に発行予定

（3）関係機関等の連携・強化

◆ **市町村社会教育指導員研修会（社会教育課）【4千円】**

社会教育指導員として社会教育関係事業の企画・立案・実施など、地域の実態に応じた活動上の諸問題についての研究協議等を行い、指導員としての資質向上を図る。

- 第1回研修会 5月16日（木） 郡山市立中央公民館 88名参加
- 第2回研修会 9月27日（金） サンライフ南相馬 87名参加

◆ **市町村社会教育担当者研修会（社会教育課）【108千円】**

初任者以外の社会教育行政担当者を対象に、「人、まちづくり」に向けた専門的・実践的な研修を行う。

- 日時・場所 8月1日（木） オンライン
8月2日（金） 男女共生センター
- 参加者 54名

◆ **公民館職員研修会（社会教育課）【80千円】**

公民館初任者を対象に、基礎的・基本的な知識の習得や技術的・実践的な研修を行う。

- 日時・場所 5月29日（水） オンライン
6月5日（水） 男女共生センター
- 参加者 168名

◆ **美術館企画展開催経費（社会教育課）【 94,396 千円】**

企画展を開催し、県民の観覧に供する。

R6 年度実績

- ・美人画の雪月花展（3/23～5/12） 総入館者数 5,524 人
- ・（新）福島的美術家展（5/25～7/22） 総入館者数 4,962 人
- ・（新）美術館の歩み展（8/3～9/16） 総入館者数 3,913 人
- ・（新）ポップ・アート展（10/26～12/15）
- ・（新）かがくいひろし展（1/25～3/9）
- ・（新）新版画展（3/22～5/25）

令和7年度の取組予定

（1）ICTの活用と学習情報の提供

○継続事業

- ・ニューズレター発行（生涯学習課）【 0 円】
- ・デジタルデバイス解消事業（デジタル変革課）【 5,532 千円】〔再掲〕
- ・ふくしまデジタルアート推進事業（文化振興課）【9,813 千円】〔再掲〕
- ・学びあう生涯学習社会形成事業（生涯学習課）【 1,328 千円】

○一部新規事業

- ・建設 DX 推進事業（技術管理課）【 69,000 千円】

（2）学習成果の発表と活用場の提供

○継続事業

- ・県展開催事業（文化振興課）【 28,858 千円】
- ・福島県芸術祭開催（文化振興課）【 1,000 千円】（負担金）
- ・ジョブ・カードの普及啓発（産業人材育成課）【 0 円】〔再掲〕
- ・文学賞実施事業（文化振興課）【 4,111 千円】
- ・声楽アンサンブルコンテスト全国大会（文化振興課）【 19,198 千円】

（3）関係機関等の連携・強化

○継続事業

- ・市町村社会教育指導員研修会（社会教育課）【 4 千円】
- ・市町村社会教育担当者研修会（社会教育課）【 109 千円】
- ・公民館職員研修会（社会教育課）【 90 千円】
- ・水害・土砂災害に関する防災教育を支援する出前講座（河川計画課）【 0 円】〔再掲〕
- ・多文化共生推進事業（やさしい日本語普及促進事業）（国際課）【 10,292 千円】〔再掲〕
- ・美術館運営事務経費（社会教育課）【 243,815 千円】
- ・ふくしま海洋科学館利用補助免除事業（生涯学習課）【41,112 千円】
- ・国際芸術鑑賞事業（文化振興課）【 2,157 千円】

○一部新規事業

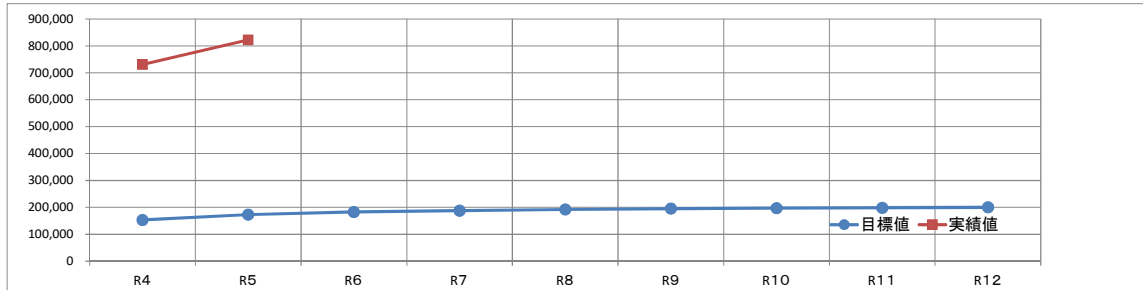
- ・博物館企画展経費（社会教育課）【 23,027 千円】
- ・美術館企画展経費（社会教育課）【 48,793 千円】

指標の進捗状況

【指標の評価方法】 A:100%以上 B:99~80% C:79~70% D:69%以下

10 県民カレッジ受講者数

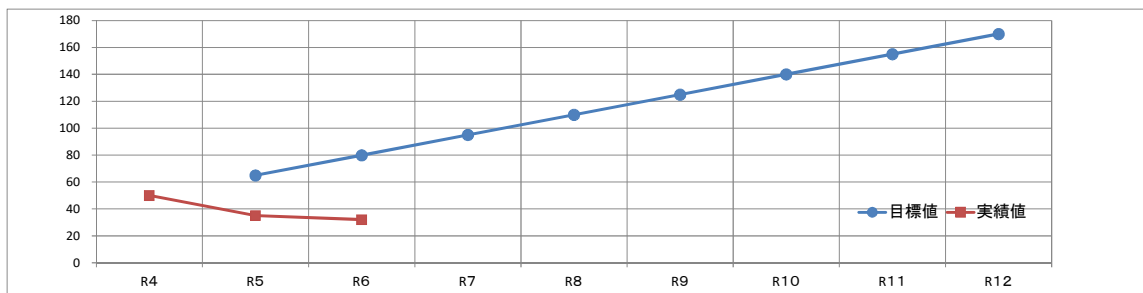
年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	評価
目標値	153,000	173,000	183,000	188,000	192,000	195,000	197,000	198,000	200,000	-
実績値	730,750	822,578								
達成率	478%	475%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	



令和4年度と令和5年度の比較	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度は、令和4年度比で約113%（約92,000人）増となった。各地で、文化祭や音楽コンサート、防犯教室等、体育館やホールなど、室内で多人数が参加するイベントが再開され受講者数の増加につながっている。 規模の大きいイベントなど、感染症予防対策を講じながらコロナ禍前の水準に回復していくことが見込まれ、今後も講座・イベント数並びに受講者が増加傾向にあるため、次年度指標の見直しを検討したい。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習推進庁内連絡会議を開催するなど、庁内関係部局課との連携を密にしながら、生涯学習関連事業（講座・イベント）の掘り起こしを行い、幅広い内容の講座やイベント、講師等の情報や生涯学習動画など、生涯学習に関する情報等の登録数を増やし、コンテンツを充実させていく。 市町村主催県民カレッジ講座（イベント）についても、市町村担当者研修会等の機会を捉え、ふくしまナビへの掲載の有効性を訴え、積極的な情報登録につなげる。

11 オンラインを活用した生涯学習講座数

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	評価
目標値		65	80	95	110	125	140	155	170	D (見込)
実績値	50	35	32 12/31							
達成率		54%	40%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	

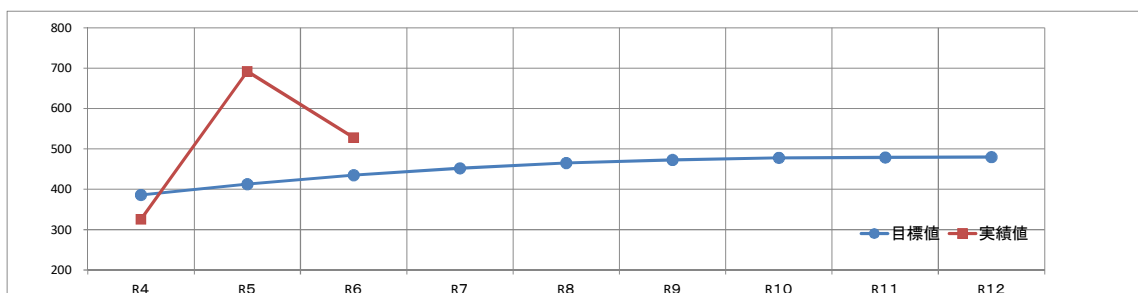


達成見込み・要因	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度に引き続き、R6年度も、Zoomなどを活用したオンライン配信による講座数が年度目標値を下回る見込みである。各市町村においては、生涯学習振興計画等でオンライン講座に重点を置いているが、対面開催に比べて参加者が少ないといった現状が見られる。 要因としては、主催者、参加者ともに、ICTスキルや受信環境といった、人的・物的に解決すべき課題が残っている。また、主催する側には、学びを通して地域の繋がりを育てていきたいという目的があり、学ぶ側には、参加のきっかけとして、集うことへの喜びや楽しさ、新たな出会いを目的としている方が多いことが挙げられる。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> 経済的、身体的課題、交通手段・時間的な余裕がない等、学びへの課題を抱えている方々に対して、学びを提供することができるよう、録画配信やハイブリッドでの開催等を、県として推奨していく。 オンラインに適した講座を見極めながら積極的にDX化を推進していただけるよう、他市町村の先行事例等を、ふくしまナビや県のHP、広報紙等を通じた紹介、市町村の支援要請に応じた訪問などにより、オンライン活用を促進する。 県デジタル化推進計画が令和7年度までの計画期間となっていることから、当該計画の見直しに合わせて取組を検討する。 県のデジタルデバйд解消事業の活用により、地域のデジタルサポーターを育成しデジタル端末のスキルが身につく講座の開設につなげる。

12 学んだことをいかす機会が講座内に組み込まれている市町村生涯学習講座数

(件)

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	評価
目標値	386	413	435	452	465	473	478	479	480	A
実績値	326	692	528 12/31							
達成率	84%	168%	121%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	



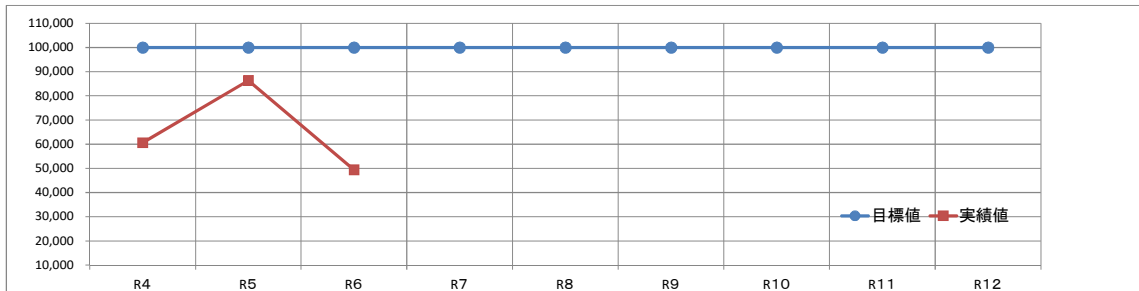
達成見込み ・要因	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度は、12月31日時点で既に年度目標値を上回っている。 ・令和5年度に新型コロナが5類に移行したことに伴い、市町村における学習成果を共有する講座や学習者の自己実現を図る機会の提供が進んでいる。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村生涯学習担当者を対象とした研修会を他市町村の参考となる取組を紹介し合う情報交換の場とするとともに、研修を通して、成果発表の場をゴールに位置づけた講座を企画するよう働きかける。 ・県内の優良事例を取り上げたニューズレターを発行し、学んだことをいかす取組を紹介していく。

13 県立美術館

(1) 入館者数

(人)

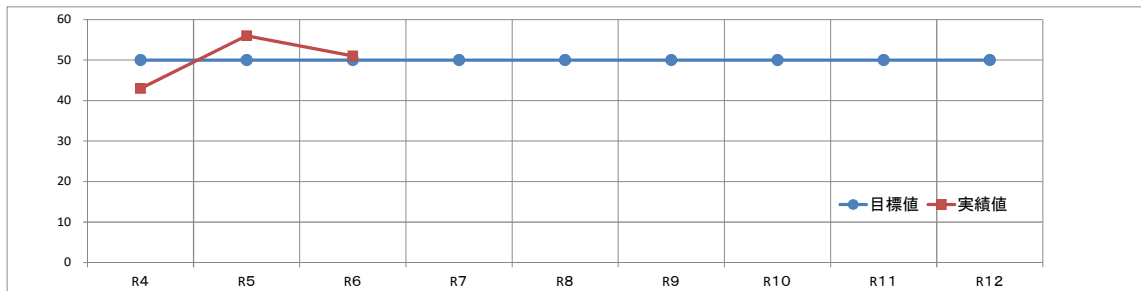
年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	評価 C (見込)
目標値	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	
実績値	60,612	86,338	49,418 12/31							
達成率	61%	86%	49%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	



(2) 講座数

(件)

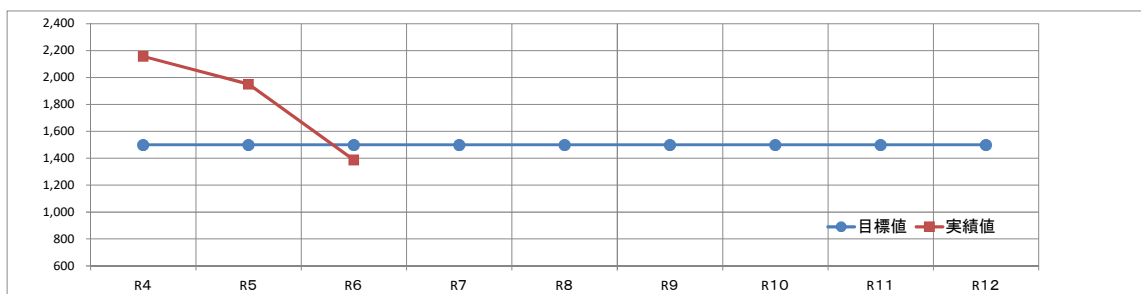
年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	評価 A
目標値	50	50	50	50	50	50	50	50	50	
実績値	43	56	51 12/31							
達成率	86%	112%	102%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	



(3) 受講者数

(人)

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	評価 A (見込)
目標値	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	
実績値	2,157	1,951	1,388 12/31							
達成率	144%	130%	93%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	



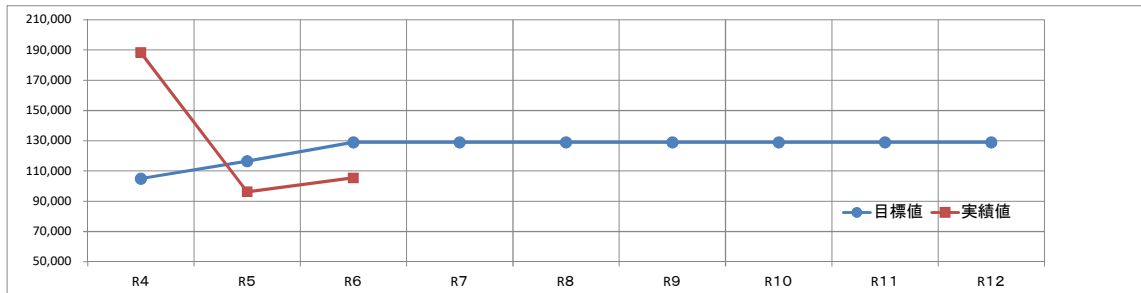
達成見込み ・要因	<p>【入館者数】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和6年度は、観覧者アンケートで「今後見たい企画展」の上位にある日本画展や開館40周年記念展等を開催するとともに、「トークフリーデー」など新たな取組みの実施や、美術に関心の薄い層にもアピールできるよう、テレビ・雑誌・新聞など、幅広いメディアへの掲載も強化したものの、大規模企画展のような継続した広報とまではいかず、12月末時点で目標達成率49.4%となっている。目標の10万人達成は難しいが、今後、1月以降の企画展や常設展等において、より効果的な広報等により多くの集客に努めていきたい。 <p>【講座数及び受講者数】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和6年度も令和5年度に引き続き、自由参加型の講座数増や常設展示のギャラリートーク開催等により、講座及び受講者数ともに、12月末時点での目標値を達成し、年度目標値を上回る見込である。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> 県民等のニーズに即した大型企画展や自主企画展をバランスよく開催する。 様々な手段で企画展の内容があらゆる年齢層に伝わるように広報する。 団体の入館者数は上昇傾向にあるが、さらに増となる取り組みが必要である。 さらに来館者の多様なニーズに対応できる様々な種類の講座の開催が必要である。

14 県立博物館

(1) 入館者数

(人)

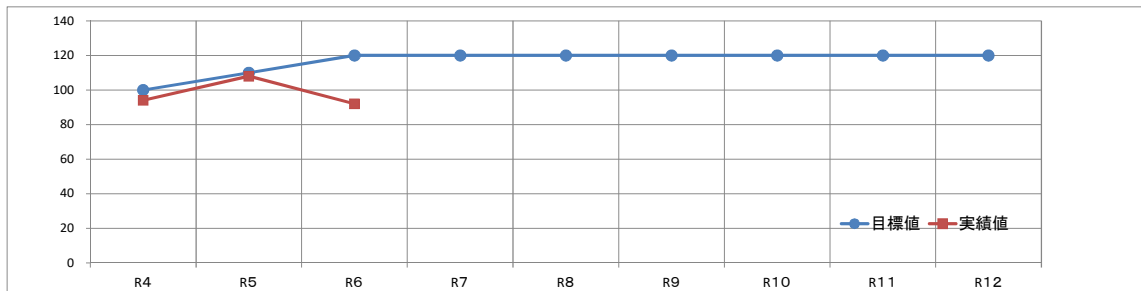
年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	評価
目標値	105,000	116,500	129,000	129,000	129,000	129,000	129,000	129,000	129,000	
実績値	188,323	96,274	105,505 12/31							
達成率	179%	83%	82%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	



(2) 講座数

(件)

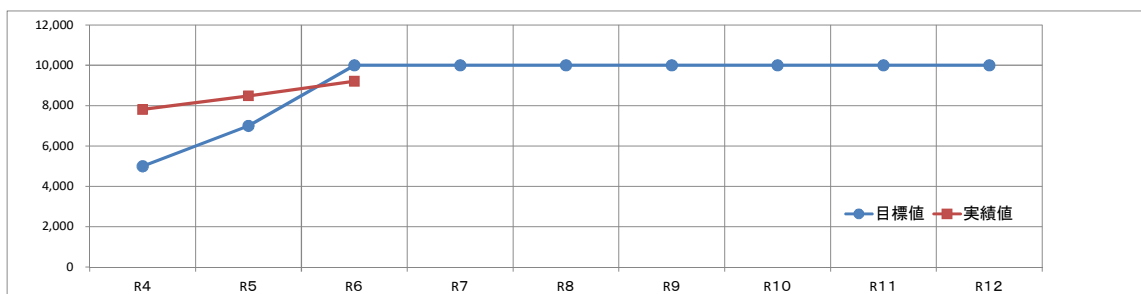
年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	評価
目標値	100	110	120	120	120	120	120	120	120	
実績値	94	108	92 12/31							
達成率	94%	98%	77%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	



(3) 受講者数

(人)

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	評価
目標値	5,000	7,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	
実績値	7,810	8,485	9,209 12/31							
達成率	156%	121%	92%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	



達成見込み ・要因	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年2月に排煙設備の不具合により、総合展示室を観覧休止としており、各学校の団体利用については、問い合わせの際に個別に事情を説明し、御理解いただいたうえで総合展示室以外の展示を観覧いただいていたが、展示室が使用できなかった影響により、例年に比べ、小中学校団体利用が減少するなど、特に学校教育活動における影響が大きい(今年度11月までの入館者全体の実績はコロナ禍前の令和元年度同時期と比較すると約71%)。 ・今年度は、自主開催のみの企画展であったことや、12月2日からトイレ改修工事による全館休館(3月31日までの予定)となったため、目標としていた入館者数に及ばず、未達成となった。 ・講座数及び受講者数については、総合展示室の観覧休止や12月からの休館の影響により、開催回数や受講者数の年度目標は未達成となった。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・総合展示室の排煙窓については、工事を実施中であり、建築基準法施行令第126条の2(排煙設備の設置)に適合させ、令和7年4月に全館の観覧再開を目指す。 ・トイレの洋式化、段差の解消などのバリアフリー化の工事を実施中であり、障がい者や乳幼児のいるファミリー層、高齢者も安心して観覧できる環境整備を行う。 ・展示室のサイン表示・解説等の多言語化、スマホ等で観覧や周遊のための情報を入手できるコンテンツ配信システムについて令和7年4月の全館観覧再開時から運用開始することにより、来館者の利便性向上と、インバウンド、外国語ユーザー増につなげる。 ・三の丸からプロジェクトの成果継承や発展を目指し、関係機関と事業体制や取組内容について検討していく。

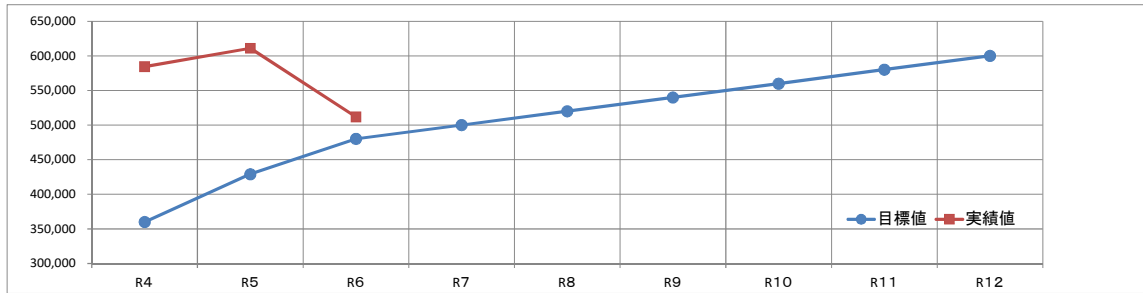
15 アクアマリンふくしま

(1)入館者数

(人)

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	評価
目標値	360,000	429,000	480,000	500,000	520,000	540,000	560,000	580,000	600,000	
実績値	584,564	611,040	511,922 12/31							
達成率	162%	142%	107%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	

A



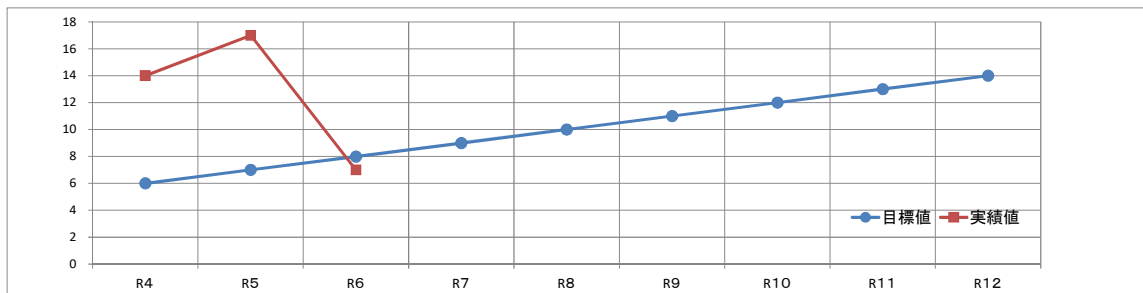
(2)講座数

(件)

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	評価
目標値	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
実績値	14	17	7 12/31							
達成率	233%	243%	88%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	

A

(見込)

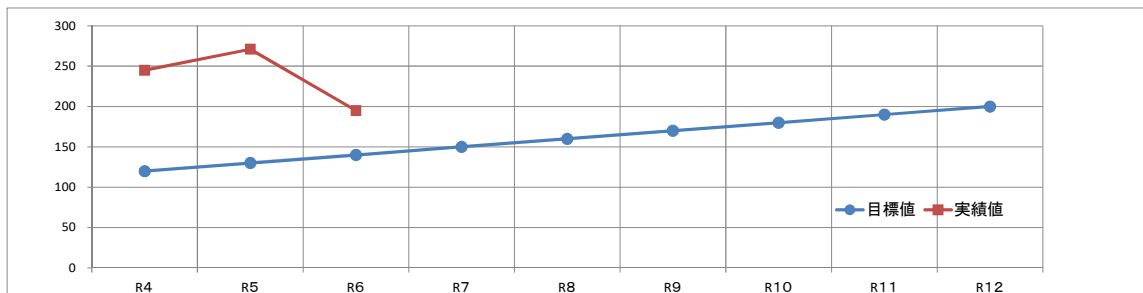


(3)受講者数

(人)

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	評価
目標値	120	130	140	150	160	170	180	190	200	
実績値	245	271	195 12/31							
達成率	204%	208%	139%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	

A



達成見込み ・要因	<ul style="list-style-type: none"> ・R6年度の入館者数は、魅力的な企画展の開催、積極的な情報発信により、引き続き、当館の魅力を広く発信できたことにより入館者数を伸ばし、既に目標を達成した。 ・スクール開催事業は、業務量が膨大なことから、実施方法や回数、参加人数、広報などの見直しに加え、内容をより魅力的なものとしたことで、受講者数は既に目標を達成した。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・縄文の里のリニューアルなどにより、引き続き、施設の魅力を向上させていく。 ・魅力ある企画開催事業を展開し、近隣施設と連携した情報発信を行っていく。 ・スクール開催事業は、見直し後の実施結果を踏まえ、より魅力的なものとなるようブラッシュアップしていく。 ・博物館法上の博物館として、学術的取組を始め、地域の観光・交流拠点としての役割を果たしていく。

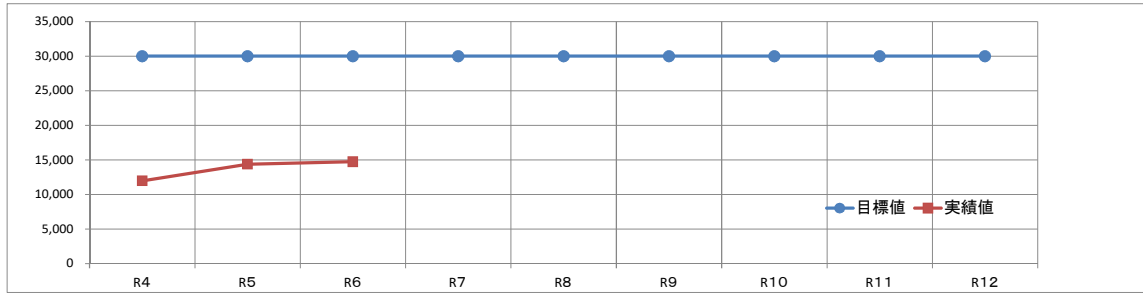
16 県文化財センター白河館

(1)入館者数

(人)

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000
実績値	11,976	14,383	14,748 12/31						
達成率	40%	48%	49%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

評価
D
(見込)

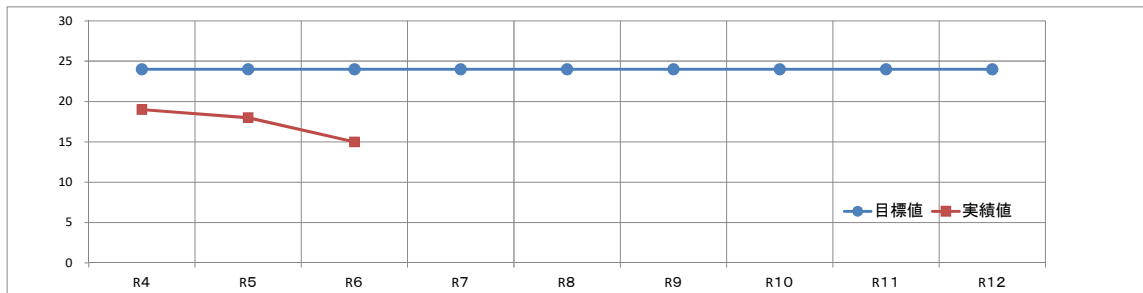


(2)講座数

(件)

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	24	24	24	24	24	24	24	24	24
実績値	19	18	15 12/31						
達成率	79%	75%	63%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

評価
C
(見込)

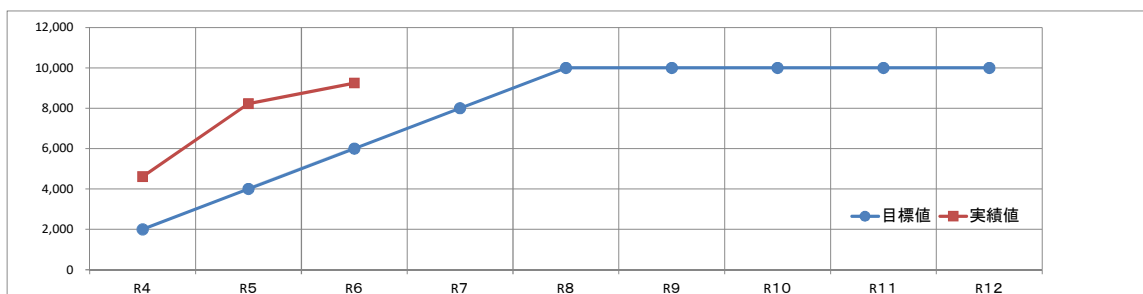


(3)体験者数

(人)

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	2,000	4,000	6,000	8,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
実績値	4,613	8,224	9,245 12/31						
達成率	231%	206%	154%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

評価
A



達成見込み ・要因	<ul style="list-style-type: none"> ・若年層を中心に多くの参加があったイベント「まほろん感謝デー」や、大きな歴史的価値があり県内外から注目されている遺跡である「前田遺跡」出土品の特別展示の取組により、新規入館者やリピーターの増加につながっていることが、入館者の感想からうかがえた。 ・コロナ禍により、前年度前半まで厳しい状況が続いていたが、昨年度の1年間入館者数とほぼ同数が9か月間で達成されており、前年度に比して、着実に入館者数は回復していると考えられる。令和6年度は目標値の達成には及ばないものの、これらの工夫ある取組で前年度以上の入館者数を記録した。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・入館者数の更なる増加に向けて、引き続き周辺部での取組である「おでかけまほろん」による文化財保護活用の啓発活動、発達段階や世代に応じたイベントや注目の遺跡に焦点を当てた特別展を企画立案し、実施していく。 ・HPでの発信やチラシ作成、学校への働きかけなど、広報活動への注力も入館者増加の一因となっていると考えられることから、今後も引き続き、幅広い年代に対して広報活動に力を入れていきたい。